



世界のこと、もっと知りたい!



63 2016年冬号

2016年1月1日(金)発行

HOKKAIDO INTERNATIONAL CENTER(OBIHIRO)



アンゴラ共和国から来たカンガラさん(左)。詳しくは2面研修員eyeで。

JICA北海道(帯広)ニュース

「もしり」とは、アイヌ語で大地の意味。北の大地から、国際協力の「今」を伝えます。

<http://www.jica.go.jp>

# 国際協力の経験を地域の学校に

グローバル化が進む今、JICAでは国際協力事業を通じて培った経験や人材・ネットワークを活用し、諸外国との関係や異文化理解など、教育活動に対して積極的に協力していきたいと考えております。具体的には、(1)日本社会に対する開発途上国に関する「知見の還元」、(2)自分に何ができるかを「考える機会の提供」、および(3)地域での国際理解教育推進のための「橋渡し役」の3点に重点を置き、学校の先生や市民の皆様を対象に国際理解教育支援事業を実施しています。

国際協力  
出前講座



児童・生徒向け

国際協力の経験者(青年海外協力隊OB・OGやJICA職員等)が講師として学校などに伺い、国際協力の現場の様子や体験等をお話します。学校の先生やPTA、自治体の研修等にもご活用いただけます。※通年受付。翌年度分の申込みも可能です。

JICA研修員  
学校訪問



JICA研修員として途上国より来日している研修員が学校へ出向き、児童・生徒と交流・学習をします。交流を通して、開発途上国や異文化理解に関する児童・生徒の興味・関心を引き出し、グローバル人材の育成に活用いただけます。研修員にとっても貴重な体験となるプログラムです。※十勝管内を中心に実施。訪問校の選定は公募式です。(2月公募予定)

JICA北海道  
(帯広)  
センター訪問



JICA北海道(帯広)を訪問いただき、JICAボランティア経験者の体験談を聞いたり、JICAが行っている事業やODA(政府開発援助)について学習することができます。プログラムは時間や人数・学年などを考慮して調整可能です。今後は、施設内の展示も充実を図っていく予定です。※最大受入可能人数は原則30名程度。申し込みは訪問希望日の1ヶ月前。

教師海外  
研修



国際理解教育に関心を持つ先生が対象です。実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を次代を担う児童・生徒の教育に役立てていただくことを目的としています。※北海道地域でのプログラムは例年1月上旬に実施。(募集期間:7月~8月頃)

国際理解  
教育指導者  
研修



教員向け

国際理解教育に興味をお持ちの先生方を対象に、国際理解教育の授業実践を模擬授業として行い、指導案などの情報共有、教材作成を支援するための研修プログラムです。過去に教師海外研修に参加した現役の先生を講師として招きます。※JICA北海道(帯広)では、年に1回~2回程度実施。

その他、中学生・高校生を対象としたエッセイコンテストや、高校生国際協力セミナー、資料や教材、写真パネルや民族衣装の貸出しも行っております。是非積極的にご活用ください。

世界から日本へ  
**研修員**  
**eye**  
アイ

JICA北海道(帯広)には、研修員受入事業として開発途上国で必要とされている知識や技術を学ぶために各国から研修員たちが来日しています。彼らは帰国後、自国の発展のために指導的な役割を果たすことが期待されています。

**アンゴラからやって来た  
カンガラさん**

〈アンゴラ共和国〉



研修コース:小学校理科教育の質的向上  
〔「教えと学び」の現場教育〕コース

■名前:カンガラさん  
■出身:アンゴラ共和国



**Matondo** (マトンドゥ)  
(アンゴラ言葉、キコンゴ語で「ありがとう」)

**Q1** アンゴラって  
どんな国?

アフリカ南部に位置する国で、石油など地下資源が豊富で農業も盛んです。私はアンゴラで小学校の教師をしています。

**Q2** 母国と日本との  
教育の違いは?

アンゴラでは、教師が生徒に一方通行で授業をするのが一般的です。日本は、生徒に考えさせたり、調べさせたり、思考力や自立心を養う教育が進められていますね。

**Q3** 日本での生活は  
いかがですか?

日本人は、みな親切で優しいです。日本の食事は好きなものあれば苦手なものもあります。中でも生魚は食べたことがなかったので、苦手でした。

**Q4** 日本滞在中に行ってみたいところは?

東京のアンゴラ大使館を訪ねてみたいですね。それから震災で被害を受けた福島も訪ねてみたいです。原爆の歴史が残る広島には、12月に行くことが出来ました。



～JICA研修を支えてくださっている方をご紹介します～

課題別研修

小学校理科教育の質的向上  
〔「教えと学び」の現場教育〕  
コース

コースリーダー

北海道教育大学釧路校  
地域学校教育専攻 授業開発研究室  
准教授 境 智洋 さん



アンゴラの子供たち

**Q1** 国際協力(JICA研修事業)に携わるようになった  
きっかけを教えてください。

恩師の田中実先生(元北海道教育大学札幌校教授)の紹介です。「来年からは頼むよ」「わかりました」で決まりました。

**Q2** JICA研修に対してどのような想いで  
ご協力いただいていますか?

子どもたちが理科を学ぶ喜びを感じるための「シンプルで質の高い観察・実験」は、日本だけでなく、多くの国に取り入れることができると信じています。多くの国の子どもたちが科学好きになって欲しいと願っています。

**Q3** 思い出に残っている  
研修員とのエピソードを  
教えてください。

ネパールのブサルさん。根っからの理科好き。その上、踊りが好き、人と関わることが好き。ネパールに会いに行くと、彼は学校の理科授業を変え、子どもたちを理科好きにしていました。



理科教育センターでの研修

**ボランティアの  
現場から**

**青年海外協力隊**



坂口 愛 さん

派遣国:ナミビア  
出身:幕別町  
職種:コンピューター技術  
派遣期間:  
2015年1月13日～2017年1月12日



ヒンバ族になってみた。



同僚にシステムの使い方を教えてみた。

ナミビアは「世界で一番美しい砂漠」といわれるナミブ砂漠にその名を由来します。気温は40℃に達することもあり、-5℃まで冷え込む時もあります。湿度は0%になるほど乾燥していて、洗濯物はビックリするくらいはやく乾きます。ナミビアの人は小雨が降ると「今日はいいい天気ねえ」なんて言ったりします。ナミビアには多くの民族が暮らしていますが、なかでもヒンバ族は「世界で一番美しい民族」といわれています。赤土とバターを混ぜたものを肌になめることで、強い日差しや虫から肌を守り、一生に一度も体を洗わない民族です。活動のほうは、ナミビアの保健省で情報システムの開発を支援しています。エイズ、結核、マラリアの撲滅を目標に、全国の医療施設からデータを集め、分析・統計情報を提供できるように同僚たちと日々奮闘しています。